

年次報告



一般社団法人倫理研究所 令和6年度 年次報告

ANNUAL REPORT

令和5年9月1日～令和6年8月31日

CONTENTS

4 活動トピックス

…「地球倫理推進賞」の贈呈

5 …しきなみ子供短歌コンクール

6 …「倫理17000」の紹介ページを新設

7 …丸山奨学金による支援

…他団体への寄付・協賛

…ラジオ番組の提供

8 倫理の研究と成果の発信

10 家庭倫理の普及

12 企業倫理の普及

14 海外の普及

15 書道や短歌などの文化活動

16 倫理を学ぶ多彩なセミナー

18 出版物の刊行

20 組織概要

21 …家庭倫理の会・倫理法人会拠点数

22 …主要施設

23 …沿革

今年度、倫理運動は創始78周年を迎えました。引き続き「地球倫理の推進」「日本創生」の二大理念をスローガンに掲げ、運動の原点となる「世直し」の精神で諸事業を展開。何よりも自助自立の精神と矜持を高め、国民それぞれが道徳的背骨を確立すべく、勇敢に自己変革に励む人の育成に努めました。また、「倫理共同体」をゆるぎないものにするため、「人は鏡」を会

友共通の実践として取り組み、倫理的判断力を高めた実践者の養成に力を注ぎました。

研究部門では、専門研究者を中心とした研究体制のもとで純粋倫理、日本文化、倫理文化等の研究に専念し、刊行物や学会・学術誌における研究発表等を通して成果を国内・海外へ発信しました。また、昨年度に引き続き倫理意識調査を

実施し、「倫理文化学」構築へ向けた一環として『倫理文化研究叢書10 循環と相即』を発行しました。

普及部門の生涯局では、「根を広げ、花を咲かせる」をモットーに、盤石な運営体制を構築しつつ、地域における家庭教育力の向上を推し進め、愛和の家庭を増やす人々の輪を拡げました。支部活動を会活動の中心に位置づけ、「倫理のつ

どい」「支部懇談会」「班会」等の定例活動のほか、家庭をよくするための創意工夫を凝らした活動を積極的に開催。また、青年会員を対象とした「青年倫理塾」では、9カ月間で4回の合同研修と各地域では体験学習2回を実施。「青年フォーラム」を全国4カ所で開催し、社会の中でたくましく生きる力を磨きました。

普及部門の法人局では、



「人は鏡」を会友共通の実践として取り組み 倫理的判断力を養い高めた令和6年度。

国内会員社数10万社達成に向け、堅実な普及活動により確実な成果をあげつつ、中期5カ年計画の4年目にあたる今年度は目標である「8万社体制確立」に向けた普及計画を力強く推進しました。講師陣の講話力・指導力の向上をめざすとともに、会友が純粹倫理を正しく学んで実践に励み、家庭や職場・地域社会における連帯の絆を強化するため、「人は鏡」の実践に取り組みました。倫理経営の模範企業を証する「倫理17000」認定制度の充実に注力し、新規で64社が認定されました。

教育部門では、秀逸の建築空間と富士山麓の豊かな自然を舞台に、企業・家庭・

青少年教育の各種セミナーを展開しました。響きあう魂の発見をテーマに受講生が自身の心を深く見つめ、心身の免疫力を向上させる実践力を養成しました。受講者数は昨年度を上回り、4263名となりました。そのほか、中国の経営者を対象とした研修や、メキシコ、イスラエルの研究者とのフォーラムを実施しました。

文化活動は、書道・短歌によって世代をつなぎ家族の絆を深める芸術活動を展開しました。また、「第19回しきなみ子供短歌コンクール表彰式」を、受賞者2名とその家族や関係者を招いて開催。本コンクールには毎年全国の小学校より

約6万首の応募があり、子供達の国語力と感受性を育み、伝統文化の継承にも貢献する公益事業として、文部科学省をはじめ教育関係者から高く評価されています。

国際部門は、海外倫理法人会の活動支援を主軸に、リモートによる交流を中心として、関係各国の国情に応じた活動を推進しました。また、アジア諸国の留学生9名に「丸山奨学金」を支給しました。

出版部門では、丸山理事長の著書として『大変動を乗り越えるために』と『朗らかに生きる』の2冊を刊行しました。定期刊行物も計画通り発行し、「標語カレ

ンダー」「実践手帳」も好評を博しました。

広報活動では、「第27回地球倫理推進賞贈呈式」を令和6年3月29日に都内ホテルで実施。また、「倫理17000」認定企業の紹介ページを新たに開設するなど、ホームページを中心とするインターネットによる発信力の向上に努めました。

本年次報告では、令和6年度の事業について、写真や図表を多用して包括的に紹介します。



第27回 地球倫理推進賞

主催／一般社団法人 倫理研究所

後援／文部科学省・産経新聞社・全国民

令和6年度

活動トピックス

社会教育団体として、
様々な生涯学習活動を
展開しました。

地球倫理の推進に、実践面で
貢献している団体を顕彰しました。



01 「地球倫理推進賞」 の贈呈

令和6年3月29日に「第27回地球倫理推進賞贈呈式」を都内ホテルにて開催（後援／文部科学省・産経新聞社・全国民間放送ラジオ局37社）。570名が出席しました。

応募総数49件（国際活動部門17件、国内活動部門32件）の中から、国際活動部門は「一般社団法人モザンビークのいのちをつなぐ会」（榎本恵代表理事）、国内活動部門は「特定非営利活動法人JAMネットワーク」（高取しづか代表理事）を表彰しました。

国際活動部門受賞の「モザンビークのいのちをつなぐ会」は、アフリカのモザンビーク共和国のスラム地



【国際活動部門】一般社団法人 モザンビークのいのちをつなぐ会

区に事務所を構え、寺子屋の建設や環境保全・保健公衆衛生活動などを展開。住民の相互扶助の力を育み、自立につなげることを目的に、現地住民が主体となった支援活動を行っています。

国内活動部門受賞の「JAMネットワーク」は、児童養護施設の子供たちを対象にコミュニケーション能力の向上と自己肯定感の育成を目的とした「ことばキャンプ」を提供しています。また、施設職員への研修に力を入れるなど、子供たちの自立支援を多角的に行なっています。

表彰後の活動報告では、両団体が取り組みと成果を写真や映像を駆使して発表し、出席者に深い感銘を与えました。



【国内活動部門】特定非営利活動法人 JAM ネットワーク



表彰式会場の一コマ。終始和やかな雰囲気の中行なわれた

伝統文化教育への取り組み

02 しきなみ子供短歌コンクール

本コンクールは、日本の伝統文化継承への貢献を理念に掲げ、「短歌づくりを通して、子供たちの国語力を養い、豊かな人間性を育む」ことを目的として開催しています。「第19回しきなみ子供短歌コンクール（後援／文部科学省、全国民間放送ラジオ局37社）」には、全国の小学生5万9287名（1155校）より短歌が寄せられ、3次にわたる厳正なる選考の結果、最優秀賞にあたる「しきなみ子供短歌賞」ならびに「文部科学大臣賞」（小学校低学年・中学年・高学年の部）の3名、特選20名、入選308名、佳作495名が選出されました。

令和6年2月18日、倫理研究所で行なわれた表彰式には、前述の最優秀賞受賞者とその家族が出席し、前川朋廣副理事長より「しきなみ子供短歌賞」、文部科学省 総合教育政策局 地域学習推進課 課長補佐・榎木獎悟氏より「文部科学大臣賞」が授与されました。

しきなみ子供短歌賞受賞作品

低学年の部／大野葵／茨城県・2年
ミニトマトからじゅんに色づいて
かぞくのぶんをかぞえてもいだ

中学年の部／本橋侑花／千葉県・3年
妹にゆずってあげた母の手を
ねているすぎにそつとにぎった

高学年の部／中島旺佑／東京都・6年
あと二秒シュートがえかく放物線
祈る気持ちがリングに届く



表彰状を掲げた受賞者と選考委員

倫理実践の模範となる認定企業を掲載

「倫理17000」とは

「倫理経営」を実践して自社の倫理観の涵養を図り、
「倫理法人会憲章」の理念を実現しようとする企業であること証する認定制度です。

当会会員企業が拠り所とする
17の生活指針(17カ条)を
表わしています

17000
明 朗 愛 和 喜 働

17カ条の土台となる
「明朗」「愛和」「喜働」という
三つの実践指標を表わしています

「倫理17000」ライセンス紹介ページ画面

03 「倫理17000」の 紹介ページを新設

「倫理17000」は、数ある
会員企業の中で、倫理経営を顕著
に推進し、真に地域社会に貢献し
ている企業を認定するライセンス
制度です。倫理経営の取り組みの
深度を図り、「倫理法人会憲章」の
理念に則った経営を実践する模範
企業として、厳正なる審査を経て
認定されます。平成16年に始まり、
令和6年までに認定を受けた企業
は、新規認定の64社(第20期)を
加えて累計252社となりました。

「倫理17000」の数字は、「17」が
『万人幸福の栞』17カ条を、「000」
が「明朗・愛和・喜働」を表現して
います。シンボルマークである球
体も、『万人幸福の栞』17カ条をモ
チーフにしています。調和のとれた
倫理実践、経営者と社員の一体感を
象徴したデザインは、社会に向けて
「倫理法人会憲章」の理念の実現を
図ろうとする強い「絆」を意味して
います。



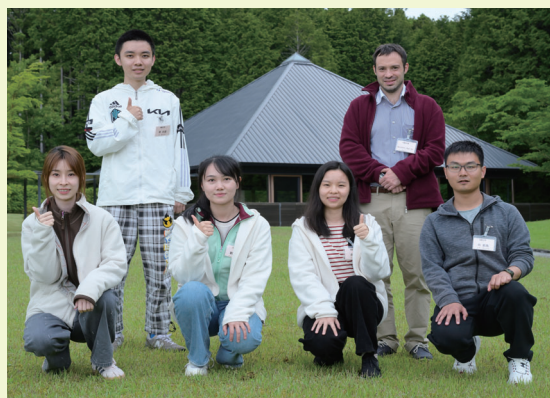
倫理17000認定企業へ渡される認定証

令和6年度は、倫理研究所
ホームページ内に、新たに「倫理
17000ライセンス認定企業」の
紹介ページを新設しました。制度
発足の経緯や認定の基準、シンボル
マークの意味などを掲載しているほ
か、新規認定企業からこれまでに認
定された295社(令和6年9月時
点)を紹介しています。さらに、令
和7年度はデザインを一新し、認定
企業の検索機能を追加するなどリ
ニューアルを予定。その準備と制作
を進めました。

令和6年度 丸山奨学生（9名）

国籍	研究機関	研究テーマ
中国	筑波大学	日本の前近代における家訓と家庭教育
中国	早稲田大学	「日本語スピーチとディベート」授業の課題
中国	北海道大学	堀田善衛の『歯車』論
中国	神戸大学	北一輝の国家思想の源流と転換
中国	神戸大学	脱炭素社会実現への省エネイノベーションの役割

国籍	研究機関	研究テーマ
イスラエル	京都大学	東南アジア開発援助をめぐる日中の競合
イスラエル	名古屋大学	社会を変化させる道具としての外来語
シリア	東京都立大学	移民・難民家庭での子供への継承言語
シリア	国際基督教大学	少数派イスラム教徒の安全保障



富士研を受講した丸山奨学生

令和6年度は「丸山奨学金」3カ国9名のアジア諸国の留学生（丸山奨学生）に奨学金総額1380万円を支給し、勉学を支援しました。

丸山奨学生は将来日本との学術・文化などの友好交流の架け橋として期待される人材であり、各自の専門研究テーマを探究するとともに、「地球倫理」を富士高原研修所で体験学習し、日本の精神文化の理解を深めています。

04

丸山奨学金による支援

教育およびその他の支援



後藤元秀豊前市長（左から2人目）へ協賛金を贈呈

丸山敏秋理事長が伊勢神宮を訪れ、式年遷宮御造営資金として100万円を寄付しました。同寄付は平成8年より毎年行なっています。

そのほか、がん研究の領域において特に優れた業績をあげた学者・研究者を賞し研究奨励助成などを行なう「公益財団法人高松宮妃癌研究基金」や、創始者の生誕地・豊前市の「豊前市芸術文化振興事業」への寄付・協賛を行ないました。

05

他団体への寄付・協賛

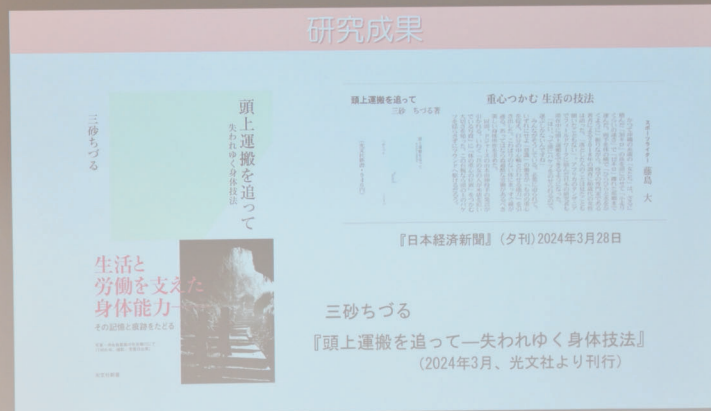
06

ラジオ番組の提供

次の世代に語り継ぎたい日本の「音」を伝えるラジオ番組「録音風物誌」の提供を令和6年度も継続しました。同番組は全国AMラジオ34局が持ち回りで制作している、放送開始から70年を越える長寿番組です。倫理研究所は、平成13年1月より番組提供を続けており、放送文化の向上に寄与しています。また、同番組提供を機に、AMラジオ37局から「地球倫理推進賞」や「しきなみ子供短歌コンクール」などに毎年後援をいただいております。（放送ネット局）

北海道放送、青森放送、岩手放送、東北放送、秋田放送、CBC山形放送、ラジオ福島、文化放送、新潟放送、信越放送、山梨放送、栃木放送、茨城放送、静岡放送、北日本放送、北陸放送、福井放送、CBCラジオ、東海ラジオ放送、京都放送、ラジオ関西、和歌山放送、山陰放送、中国放送、山口放送、四国放送、西日本放送、南海放送、高知放送、RKB毎日放送、長崎放送、熊本放送、大分放送、宮崎放送、南日本放送、琉球放送、ラジオ沖縄

倫理の研究と成果の発信



「頭上運搬—失われゆく身体技法の痕跡をたどる—」をテーマに登壇した松本亜紀専門研究員

研究センターは、倫理運動に資する研究事業を推進しました。専門研究者を中心とした研究体制のもとで、純粋倫理、日本文化、倫理文化等の研究に専念し、刊行物や学会・学術誌における研究発表等を通して、国内・海外へ発信しました。また、普及・教育・出版等の各部門の事業に資する知的資産の拡充に努めました。

研究の方向と重点

純粋倫理の研究、倫理文化に関する専門的研究を積極的に推進し、「倫理文化学」の構築をめざす研究を行ないました。

倫理文化に関する専門的研究

研究者	研究内容
内田智士	人間の認知的バイアスが、善悪判断に基づく利他的行動にどのように影響を及ぼすかについて数理モデルの手法で調査

高橋 徹	2025年以降の天象の研究を行ない、特にこれからの地球規模の変化に備えるため、同時期に生じる天文現象から地球上の変動の可能性を読み解く試みを継続
寛ボルトール	和食および伝統工芸を日本の無形文化遺産の主な例として調査し、文化遺産の現代における役割と意義について考察
松本亜紀	丸山敏雄が提唱する「無痛安産」および「性の倫理」の現代的意義と普及方法に関する研究と、女性性の本質に関する研究
平良 直	宗教研究におけるアニメズム論・フエティシズム論の系譜をたどりながら、人・モノ・霊威の関係性を読み解く新たな視座を探索
水野雄司	明治30年代の倫理的構造について星亨刺殺事件を題材にして検証

倫理意識調査の実施

昨年度に引き続き、日本人の倫理意識定点調査を令和6年3月に行

ないました。また、AI時代の経営についての調査を企画し、その準備を行ないました。

◆調査企画／倫理文化研究センター研究フェロー 海野 裕（マーケティングプランナー）

◆調査概要／令和6年は生成AIが実用的に進化した年と言える。そこでAIの登場が倫理経営やIntegrity（誠実さ・首尾一貫性）などの経営概念と実践に対してどのような影響を与えうかを調査

◆調査対象／倫理法人会所属の会員（数十名程度を予定）

◆調査期間／令和6年7月～12月（準備期間を含む）

各種研究会の開催

純粋倫理の研究に関する研究会（2回）、倫理文化の専門的研究に関する研究会（1回）を開催しました。

研究成果の発信

『倫理研究所紀要』（年刊誌）

純粋倫理の研究、倫理文化に関する専門的研究など、倫理に関する多様な研究成果を発信しました。（関連記事27頁）

通 巻	第33号
発行部数	630部

倫理研究所紀要	
第 33 号	
(編集) 日本人の倫理心とキリスト教 佐伯啓思 7 現代性の古典学(1) 岡部 謙 18 (論文) 「現代性」の倫理と日本の宗教文化 丸山敏秋 38 法廷の倫理 内田智士 50 民間社会にある女性の「徳性」のかたち 松本亜紀 108 飲食とは 寛ホルテル 148 マヤ長期暦と惑星周期の同相 高橋 徹 158 宗教と物質性 平良 直 168 伊庭想太郎の「教育論」 水野雄司 220 (研究ノート) 中国論理学(2)と中国哲学史の成立 龔 穎 234 (新刊書) 徳義論の思想史的位相とその現代的意義 李 致億 272 (調査レポート) 倫理とIntegrity—日本人を変えよう— 海野 裕 274	
2024年	
一般社団法人 倫理研究所	

掲載論文

執筆者	テーマ
佐伯啓思	《論説》日本人の信仰心とキリスト教
與那覇 潤	《論説》現代性の古典学(1) —村上龍『限りなく透明に近いブルー』
丸山敏秋	「身代り」の倫理と日本の宗教文化
内田智士	量子の不思議
松本亜紀	民俗社会にみる女性の「連帯」のかたち—性・生殖・身体性を軸として
寛ホルテル	和食とは—無形文化遺産としての「和食」の定義からみるその姿
高橋 徹	マヤ長期暦と惑星周期の同期
平良 直	宗教と物質性—モノとマテリアリティの宗教学にむけて
水野雄司	伊庭想太郎の「教育論」—「学之友」の論考を中心に

龔 穎	《研究ノート》蔡元培「中国倫理学史」と中国哲学史の成立
-----	-----------------------------

李 致億	《研究ノート》『心経附註』修養論の思想的位相とその現代的意義
------	--------------------------------

海野 裕	《調査レポート》倫理とIntegrity—日本人を変えよう— 資質とは何か？
------	--

『倫理』（月刊誌）

純粋倫理の基礎的・専門的研究、倫理文化の専門的研究に関する諸論考を掲載しました。

通 巻	849号～860号
発行部数	5万4100部



『倫理文化研究叢書』

「倫理文化学」構築の一環として、『倫理文化研究叢書10』を発刊しました（令和6年3月15日）。書籍タイトルは『循環と相即』。（関連記事27頁）

研究資料の蒐集と提供

実践体験事例1010篇、研究論文229篇を分類整理・保存しました。併せて、教育・普及・出版の各部門の要望に応じて、情報提供を行ないました。

倫理資料館の運営・管理

純粋倫理の研究ならびに倫理文化に関する専門的研究に資する図書資料の充実を図りました。今年度は、新たに計1073冊を図書資料として登録。また、創始者の遺品蒐集・保存作業、倫理運動史料の蒐集・整理を行ないました。

研究機関および研究者との交流

「日本家庭教育学会」「人体科学会」「日本国史学会」など、諸学会の活動に協賛し、専門家との交流を深めました。「日本家庭教育学会」の第39回大会では委員として企画実施にあたりました。併せて、道徳教育および家庭教育を推進する関係団体、ならびにその研究者との交流を図り、必要に応じてその活動を支援し、また「女性性の本質」に関する研究に対して研究助成を行ないました。加えて、国内外の国際会議・研究学会において研究発表を行ないました。

青年フォーラム 2024 in 神戸

家庭倫理の普及

スタッフが丸となって成功に導いた青年フォーラム

家庭倫理の会は、子育て活動を通して、子育てに関する自信と安心を高める活動を展開。青年活動においては、各地域で社会に貢献できる青年の育成に努めました。また、シニア活動は、晩年の生きがいを見出す人々の相互交流につながる多彩な活動を通して、いきいきとした人生を歩むシニア世代の輪を拡げ、世代間のつながりを強く結ぶべく諸活動を実施しました。

おはよう倫理塾

純粹倫理の学習と実践を自発的に求める人々を対象に、早朝の自己鍛錬と心境向上の場として開催しました。型に則った内容を遵守し、実践報告や講話を通じて純粹倫理に対する理解を深めました。

開催会場	参加者数
508カ所	63万7643名

家庭倫理の会は「根を広げ、花を咲かせる」をモットーに、愛和の家庭づくりを実践する人々の輪を拡げて、地域の家庭教育力向上を推し進め、活動の充実を図りました。

子育てセミナー

各家庭倫理の会において①妊娠婦②乳幼児期の子を持つ親③児童期の子を持つ親④思春期の子を持つ親を対象に開催し、子育てに悩む若い父母層への純粹倫理の普及に努めました。

開催回数	参加者数
1067回	5751名



子供倫理塾

「学び・遊び・競」をテーマに、小学生を対象とした「子供倫理塾」を開催しました。純粹倫理についてやさしく解説するとともに「5アクト」の実践を奨励し、基本的な生活習慣を学びました。

開催回数	288回
参加者数	1872名



シニア活動

高齢層の会員および未会員を対象とした催しを企画し、活気溢れる相互交流の場を提供する活動を各地で開催。高齢層の社会的な孤立化を未然に防ぎ、晩年の生きがいを見出せるよう、会独自の「シニア活動」や県主催

の「シニア活動発表会」など、創意工夫を凝らした活動を行いました。



純粹倫理基礎講座

全国の家庭倫理の会会員を対象に開催しました。純粹倫理の基本を『純粹倫理入門』（テキスト本）に基づいて学習し、純粹倫理の理解を深めるとともに実践意欲を高めました。

青年育成活動

青年倫理塾

生涯局が主催する「青年倫理塾」では、青年層の会員を対象に、運命を切り開くための実践力を養い、過去から未来へと続く命の自覚を深

め、日本人としての自信と誇りを取り戻す総合学習プログラムを実施。

11月～翌7月までの9ヵ月間で4回の合同研修と、各地域での体験学習を2回開催しました。

青年倫理塾

開催回数	12回
参加者数	203名

青年倫理セミナースペシャル in 東北

令和6年4月27～29日にかけて、「青年セミナースペシャルin東北」が開催されました。今回で3回目となる本セミナーは、東日本大震災



について「見る」「聞く」「伝える」をテーマに、青年16名が参加。岩手県・宮城県の被災地4カ所を巡りました。

青年フォーラム

「青年フォーラム」は、企画・構成から運営に至るまでをすべて青年たちで考え、手づくりで完成させる行事です。今年度のテーマは「世代をつなぐスピーチ」。青年の弁論を中心に、小学生による子供作文発表、子育て世代・シニア世代によるスピーチなど、幅広い世代が登壇し、想いを述べました。

会場	来場者数
一ツ橋ホール（東京都）	564
神戸国際会議場（神戸）	547
熊本城ホール（熊本県）	570
さわふじ未来ホール（沖縄県）	358
合計	2,039

令和6年度 倫理経営講演会
 テーマ **経営力を磨く** ～時代が求める心の経営～
 主催：名古屋市熱田・港倫理法人会

職場に心を！

企業倫理の普及

倫理法人会は、国内会員社数10万社達成に向け、堅実な普及活動により確実な成果をあげつつ、5力年毎に中期計画を設け、段階的に挑みました。

令和6年度は、純粋倫理を正しく学んで実践に励み、家庭や職場・地域社会における連帯の絆を強化するため、「人は鏡」の実践に引き続き取り組みながら同志の輪を拡げ、中期の目標である「8万社体制確立」に向けた計画を力強く推進しました。

倫理経営講演会

「経営力を磨く―時代が求める心の経営―」をテーマに、令和6年1月～5月にかけて全国の倫理法人会で開催しました。事業体験報告や朝礼実演により、倫理経営の重要性や、職場に鋭気と活力をもたらす朝礼の必要性をアピールし、多くの経営者の賛同を得ました。

開催会場	参加者数
735力所	5万9434名

経営者モーニングセミナー

毎週1回、早朝に全国の市・区単位の倫理法人会で開催しました。参

加者は朝型の生活習慣を体得するとともに、各界で活躍する講師の体験談などを聴講し、企業を健全な繁栄へと導く倫理経営についての学びを深めました。また、会員同士の交流や情報交換も盛んに行なわれました。

開催回数	参加者数
3万6116回	109万1288名



職場朝礼の推進

よりよい社風づくりと社員の資質向上をめざして、活力溢れる職場朝礼を推進しました。朝礼用のテキストである『職場の教養』を毎月発行したほか、朝礼研修に力を注ぎ、朝礼実施企業の増大を図りました。

朝礼研修実施回数	参加者数
93回	1143名



後継者倫理塾

企業の未来を担う後継者の育成を目的に開催しました。純粋倫理の学習と実践を通して、よりよい生活習

慣と豊かな人間性、真のリーダーシップを備えた将来の経営者の養成に力を注ぎました。

開催回数	参加者数
1都1府12県	165名



倫理経営塾

倫理経営を正しく理解・実践して、健全な企業経営を行なう経営者の育成と、倫理経営の社内浸透による、企業繁栄の実現をめざして開催しました。

開催地	参加者数
1都7県	

経営者の集い

業態により「経営者モーニングセミナー」に参加できない会員や、新規入会者、入会を希望する経営者を対象に、純粋倫理の学びを深める勉強会を各倫理法人会で開催しました。

開催回数	参加者数
1697回	2万8067名

講師・幹部の養成

純粋倫理の深い理解と実践力の強化・向上のために、役職者およびその候補者を対象に、「倫理経営基礎講座」を各会で実施しました。また、「経営者の集い」「倫理経営講演会」における事業体験報告者の話力向上のため同報告者研修を実施。さらに、「法人レクチャー研修」「倫理経営インストラクター研修」を開催するなど、講師陣の指導力向上に努めました。

倫理経営講演会事業体験報告者研修 & 新任法人レクチャー研修

開催回数	参加者数
2回	134名

倫理経営インストラクター研修

開催回数	参加者数
1回	41名

「倫理17000」

真に地域社会へ貢献し、倫理経営を顕著に推進している企業を認定するライセンス制度として平成16年からスタート。令和6年度は新たに64社を認定し57社の更新審査を実施、認定証を授与しました。

認定企業数
252社(期末)





純粋倫理を学ぶブラジル倫理の会の方々

海外の普及

「アジア（世界）のタグボート」を念頭に、国情に応じた倫理普及および地球倫理の実践活動を推進し、海外における倫理運動の拡充を図りました。

台湾

「中華民國倫理研究学会」は、11月に「創立37周年慶祝大会」が開催され、503名が出席しました。「アジア台湾企業倫理促進会」は、5月に「設立8周年慶祝会員大会」を開催。また、倫理経営模範企業研修を7月から開催。日本の講師主導で行なってきたノウハウを元に、地元の講師陣が主体となり研修をリードしました。

アメリカ

「南カリフォルニア倫理の会」は6月に「しきなみ短歌会」設立40周年記念行事を開催しました。「カリフォルニア州倫理法人会」では、人材育成と組織拡充支援のため、定期的に講話映像を提供。「サンディエゴ倫理法人会」は、初の英語による倫理経営講演会を開催し、110名（リモート含む）が参加しました。また、米国邦字新聞『ニューヨークビズ』に毎週倫理経営に関する記事を掲載し、全米18都市の日系人に広く倫理経営を伝えました。

ブラジル

「ブラジル倫理の会」の倫理学習と普及力の向上をめざす活動を支援しました。「サンパウロ州倫理法人会」には、2拠点の人材の発掘・育成および拡充を図るため、定期的に日本の講師による講話映像をポルトガル語吹き替え版に編集・制作し提供しました。また、海外に初の参事が2名誕生。アメリカは梅本豊造氏、ブラジルは須郷清孝氏に、それぞれの年度はじめて式にて特別表彰状が贈呈されました。

中国

「倫理研究所中国事務所」を拠点に、既に交流のある諸団体との関係を強化し、諸機関とタイアップしながら中国における人的交流を推進しました。その一環として、7月には中国の経営者21名が来日。3泊4日で富士高原研修所のセミナーを受講しました。内蒙古自治区・クブチ沙漠の植林事業は、「地球倫理の森」記念碑周辺の木々の管理・維持のみ継続しました。

書道や短歌などの文化活動



小学校で行なわれた「短歌出前授業」（家庭倫理の会三次庄原）



秋津書道会

「自分の思いを書く」ことを通して個性の発揚や純粹倫理の学びを深め、生活の浄化と倫理普及に取り組みました。また、世代をつなぎ家族の絆を深める「家族書道教室」の開催と、「初めての書道教室」などを開催して、会員に限らず広く参加者を募り、活動の活発化に着実な成果を上げました。

会場数	256支苑
月刊誌『秋津書道』年間出品者総数	2万9106名



しきなみ短歌会

短歌づくりを通して純粹倫理の学びを深め、生活の浄化と個性の発揚をめざすとともに、倫理普及に取り組みました。世代をつなぎ家族の絆を深める「家族短歌教室」や、地域の小中学校における「短歌教室」のボランティア、「初めての短歌教室」などの開催を通して、地域の教育力向上に貢献しました。

会場数	342支苑
月刊誌『しきなみ』年間出詠者総数	6万2204名

倫理を学ぶ 多彩なセミナー



大自然の中で倫理の学びを肌で感じ、実践力を高めた受講生

富士山麓の自然豊かな富士高原研修所において、家庭倫理の会の会員を対象とした「生活倫理セミナー」、倫理法人会の会員企業の経営者や社員を対象とした「企業倫理セミナー」、小学生と保護者を対象とした「小学生親子セミナー」など、各種セミナーを開催しました。令和6年度は4263名の受講生が純粋倫理の学びを深め、実践力の向上を図りました。

青少年教育に関するセミナー

小学生親子セミナー

小学生は「やればできる」、保護者は「子どもを信じる」をテーマに学習しました。子供は豊かな自然環境の中でのびのびと遊び、体験学習で自立心や協調性を養うべく、池での水遊び、トマト収穫、キャンプファイヤー、富士山トレッキングを実施しました。保護者は、親子関係の原理を中心に学びを深めました。

(令和6年8月開催)

参加者数 (6組) 301名

中学生セミナー

今年度は、3泊4日で開催。チームワークの形成を目的とした富士登山、自分と向き合う身体ワークや恩意識に気づく実習を実施。また、チームで出し物を考え、自己表現力を養う実習を行なうなど、全体的に体験学習を主軸に学びました。

(令和6年7月開催)

参加者数 (1組) 58名

高校生セミナー

初の試みで11月の連休に2泊3日で開催しました。青年倫理塾と併催し、社会人を含む年齢層が比較的近い人と共に受講することで、学習効果を高めました。基本実践と恩意識の涵養を中心に取り組みました。

(令和5年11月開催)

参加者数 (1組) 12名

家庭教育に関するセミナー

生活倫理セミナー

「朗らかに生きる」をテーマに開催。丸山敏雄記念館を活用し、特別

展示「丸山敏雄と鳥居武二展」を行ないました。創立70周年を記念して制作した映像作品「伝承日本」の鑑賞やグループトークなどを行ない、実践力の向上をめざしました。

参加者数
(7組) 736名

企業教育に関するセミナー

経営者倫理セミナー

「まごころ実践13」にチームで取り組み、実践力の向上を図りました。事業体験のケーススタディーから倫理経営を学びました。体感型の学習で恩意識と明朗の心を養いました。

参加者数
(14組) 1295名

社員倫理セミナー

幹部社員・一般社員を対象に、自社における「活力朝礼」の積極的な活用や、日常業務の改善・向上の原動力となる恩意識の深化を主軸に講座と実習を展開しました。

参加者数
(6組) 202名

新人社員倫理セミナー

挨拶や後始末などの日常生活の基本動作を体得しました。また、チームワーク向上を体感する講義・実習など、活力を引き出す内容を中心に行ないました。

参加者数
(3組) 126名

後継者倫理塾 富士研セミナー

次代を担う経営者として、必要な諸能力、チームワーク、恩意識の深化を主軸に、運営スタッフともに相互の自己錬磨に取り組みました。

参加者数
(2組) 192名

自主企画セミナー

都道府県倫理法人会、単位倫理法人会の役職者や1社単独など、各自が独自に企画した内容を盛り込んだセミナーを6組開催しました。海外対応のセミナーとしては、中国経営者の自主企画を3泊4日で開催しました。

参加者数
(6組) 249名

映像セミナー

丸山敏雄とその時代

創立70周年および創始者生誕120周年を記念して制作した映像全8章の鑑賞と解説をメインに、倫理運動の草創期とその時代背景を史実に基づき学習しました。

参加者数
(2組) 151名

愛和のみそぎ

経営者セミナーチャレンジコース参加者を対象に、みそぎに特化したセミナーを開催しました。

参加者数
(1組) 31名

恩意識の探求

経営者セミナー受講経験者を対象に、恩の遡源に特化したセミナーを開催しました。

参加者数
(1組) 33名

その他

霊峰富士国際フォーラム

メキシコ、イスラエル、日本の研究者が集い、4泊5日で開催。世界文化遺産である富士山に祈りをささげ、大自然への畏敬と感謝を深めるフォーラムを実施しました。



出版物の刊行

定期刊行物

月刊誌

『新世』

生涯学習総合誌として、夫婦、親子、職場の人間関係を円滑にするポイントや、心豊かな暮らしを実現するためのヒントとなる記事を掲載し、幅広い世代の読者層に純粋倫理をお伝えしました。

通巻	912号～923号
発行部数	107万9400部



『倫理』

純粋倫理の基礎的・専門的研究、倫理文化の専門的研究に関する諸論考を掲載しました。（関連記事17頁）

通巻	573号～584号
発行部数	2226万部



『職場の教養』

多岐にわたる話題・事例を題材として、職場人としての行動指針を提供しました。朝礼での活用を通じて自己を見つめ直し、職場や家庭で実行できるよう、分かりやすい文章表現に留意しました。

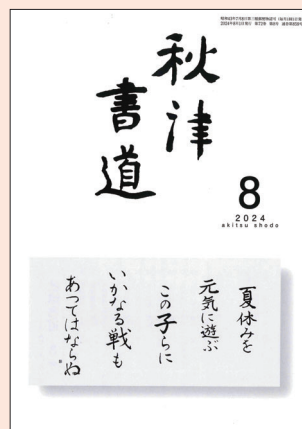
『秋津書道』

「秋津書道会」の創設者・丸山敏雄の書を学ぶ会員の相互研鑽の場として、初心者から上級者まで各々の書境向上に資するよう努めました。2次元コードを掲載し、筆遣い・課題の

倫理運動の普及推進に資する出版物の刊行を各部門と連携して行ないました。

ポイントなどを配信。会員の学びの一助としました。

通巻	848号～859号
発行部数	5万7900部



『しきなみ』

短歌を通して純粋倫理を学び、生活の浄化と個性の発揚に資するよう努めました。会員の毎月の作品発表の場として、出詠者数日本一の短歌誌の名に恥じぬよう、内容の充実を図りました。

通巻	930号～941号
発行部数	8万1600部



隔月刊誌

『倫理ネットワーク』

倫理法人会の情報誌として、倫理経営の要点や法人局研究員による連載を掲載し、会員が事業経営および倫理法人会活動において高い意識を維持できるよう、活力ある誌面構成に努めました。

通巻	164号～169号
発行部数	58万4500部



『倫理研究所紀要』

純粋倫理の研究、倫理文化に関する専門的研究など、多様な研究成果を発信しました。（関連記事9頁）

月刊紙

『倫研新報』

倫理研究所の主要事業・行事および全国の家庭倫理の会、倫理法人会、海外普及活動などの報告記事を掲載。家庭倫理の会については「子育てセミナー」、「シニア活動発表会」、青年活動など各地の家庭倫理の会の諸活動を、倫理法人会については「倫理経営講演会」、開設式典、周年行事、年度目標達成に向けた取り組みなど、各地の倫理法人会の諸活動を紹介。対外活動としては、「第19回しきなみ子供短歌コンクール表彰式」「第27回地球倫理推進賞贈呈式」などを紹介しました。

通巻 795号〜806号

発行部数 140万550部



書籍

『大変動を乗りきるために』

丸山敏秋著

「家庭倫理の会 全役職者研修」の内容を書籍化。大変動の時代に「純粹倫理を正しく学び、喜んで実践し、自信と誇りをもって普及に取り組む」ことを後押ししてくれる一冊です。



『朗らかに生きる』

丸山敏秋著

月刊誌『新世』の「新世言」から厳選した38話と、「ニューヨーク倫理友の会」会報記事から「たましい」をテーマにした10話をそれぞれ加筆修正しました。



『循環と相即』

倫理文化研究叢書10

丸山敏秋著

純粹倫理を支える「七つの原理」に匹敵する根本性、始原性、普遍性を有し、実践的な生活法則も導き出せると考えられる「循環の原理」と「相即の原理」。その内容の拡充を試みた一冊。（関連記事17頁）



『はじめての短歌』

しきなみ短歌会編

短歌の作り方を項目ごとにわかりやすく解説。間違えやすい古典文法や表現技法について例歌をあげた説明や、名歌の鑑賞、短歌の歴史についても紹介しました。



手帳・カレンダー

「2024 標語カレンダー」

今日の道しるべ」

31日分の標語によって、純粹倫理の学びと日々の指針となる実践を明確に表しました。

販売部数 11万7738部



「実践手帳 2025」

「グリーン」と「ピンク」を発売。週間予定の上部には、既刊書籍から選出した倫理の言葉を掲載しました。

販売部数 7687部



会員の構成

会員は倫理研究所の趣旨に賛同し、倫理運動に参加する意志のある個人と法人によって構成されています。個人会員の組織を「家庭倫理の会」、法人会員の組織を「倫理法人会」と称します。ほかに文化芸術活動を行なう「秋津書道会」「しきなみ短歌会」があります。

会員数（公称/2024年9月1日現在）

家庭倫理の会	100,000 名
倫理法人会	70,000 社
秋津書道会	3,700 名
しきなみ短歌会	5,400 名

会費（月額）

個人	500 円
賛助	1,000 円
協賛	3,000 円
特別賛助	10,000 円
法人	10,000 円（1口）

秋津 会員	1,500 円
// （ジュニア会員）	800 円
しきなみ 会員	1,000 円
// （ジュニア会員）	500 円

組織概要

名 称 一般社団法人倫理研究所
英文名称 RINRI Institute of Ethics
理事長 丸山敏秋
副理事長 前川朋廣
常任理事 鈴江 章／和田 毅
理 事 12名
監 事 2名
職 員 123名
所在地 〒102-8561
東京都千代田区紀尾井町4-5
TEL 03-3264-2251 FAX 03-3239-7431
創 立 1945年9月3日（倫理運動創始の日）
1948年10月30日に社団法人設立許可
2013年9月2日に一般社団法人へ移行
目 的 倫理の研究並びに実践普及により、生活の改善、道義の昂揚、文化の発展を図り、もって民族の繁栄と人類の平和に資する。
事 業 1. 社会教育事業
2. 研究事業
3. 出版・広報事業
4. 文化事業
5. 地球倫理推進事業
ホームページ <https://www.rinri-jpn.or.jp>

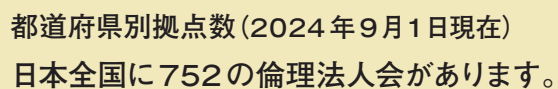
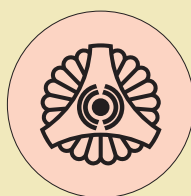
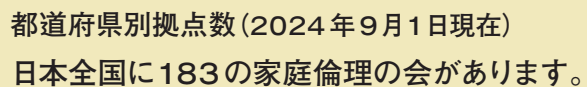


創始者・丸山敏雄

1892（明治25）年5月5日、福岡県豊前市生まれ。広島高等師範学校を卒業し、師範学校などの教諭として奉職。37歳で広島文理科大学に入学。日本の精神文化、歴史を探究するとともに、書道や短歌など芸術分野でも研鑽を積む。1938（昭和13）年に「秋津書道院」、1946（昭和21）年に「しきなみ短歌会」を創設。さらに、長年にわたる宗教や道徳などの研究を土台に、自らの実践、体験を積み上げながら、「人間生活のすじみち」を研究し続け、それを純粋倫理と名づけた。その後、数多くの論文を発表しながら純粋倫理を体系づけることに力を注ぐ。

1945（昭和20）年に倫理運動を興し、翌年、「新世文化研究所」（現・倫理研究所）を創立。自ら陣頭に立ち、一人でも多くの人に純粋倫理を伝えるべく、教育や講演、研究、執筆に生命を賭す。『万人幸福の栞』『無痛安産の書』『人類の朝光』など著書多数。1951（昭和26）年12月14日逝去。

丸山敏雄ウェブ <https://founder.rinri-jpn.or.jp>



主要施設



倫理研究所（本部）

倫理運動推進の本部として、研究・普及・教育・企画・出版・広報などの各種業務を行なっています。

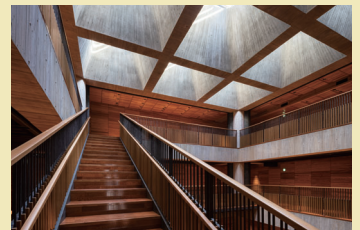
〒102-8561 東京都千代田区紀尾井町 4-5



紀尾井清堂

倫理運動創始75周年を記念して令和2年に竣工。本部の真向かいに位置し、展示室やホールを備えています。

〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町 3-1



富士高原研修所

純粋倫理の理論的・実践的学習の場として、小学生から成人を対象にした各種セミナーを行なっています。敷地内には他に、富士倫理学苑・富士万葉植物園・丸山敏雄記念館があります。

〒412-0008 静岡県御殿場市印野 1383-9



倫理資料館

創始者の遺品・遺墨、倫理・道徳に関する専門図書のほか、倫理運動史料や記録などの蒐集・保存整理を行なっています。

〒180-0022 東京都武蔵野市境 5-6-25



天和会館

倫理運動の創始者・丸山敏雄の生家（2006年復元）に隣接した会館。主に倫理研究所の研修施設として活用されています。

〒828-0081 福岡県豊前市大字天和 392-1

沿革

1945 年	丸山敏雄、論文「夫婦道」起稿。倫理運動を創始。	2000 年	ブラジル・サンパウロに拠点開設。
1946 年	新世文化研究所設立（初代所長・丸山敏雄）。 短歌誌『しきなみ』創刊。	2001 年	新富士高原研修所グランドオープン。
1947 年	新世会設立。翌年、社団法人の許可を受ける。月刊誌『文化と家庭』創刊（1949年『新世』へ改題）。	2005 年	個人会員組織を「支所」から「家庭倫理の会」に改称。「朝の集い」を「おはよう倫理塾」に改称。
1948 年	新世会が社団法人の許可を受ける。	2006 年	第1回しきなみ子供短歌コンクール表彰式開催。 創始者生家（復元）竣工。
1949 年	「朝の集い」開始（上野、神田、銀座、市川）。	2007 年	倫理法人会5万社達成記念大会開催。
1951 年	新世会を倫理研究所と改称。丸山敏雄逝去。 丸山竹秋、理事長に就任。	2009 年	「地球倫理の森」創成10周年記念大会開催。 丸山竹秋没後10年記念大会を開催。
1952 年	月刊誌『倫理』創刊。	2010 年	日中実践倫理学討論会2010開催。
1953 年	月刊誌『秋津書道』創刊。	2011 年	富士教育センターオープン45周年記念式典開催。 グランドデザイン完成。
1958 年	『10分間の教養集』創刊（1976年創刊の『職場の教養』の前身）。	2012 年	創始者生誕120年記念式典開催。
1966 年	富士高原研修所竣工。	2013 年	一般社団法人へ移行。
1967 年	中日支所設立、支所体制がスタート。	2014 年	「地球倫理の森」創成15周年記念式典開催。 長年の沙漠緑化活動が「第6回中国環境発展要人フォーラム」で表彰される。
1968 年	初の全国青年弁論大会開催。	2015 年	「地球倫理の森ウランブハ」創成事業スタート。 創立70周年記念全国青年弁論大会開催。
1973 年	アメリカ・ロサンゼルスに拠点開設。	2016 年	倫理法人会全国代表者大会開催。台湾にアジア台湾企業倫理促進会設立。南カリフォルニア倫理法人会設立。富士教育センター開設50周年記念式典開催。倫理研究所本部を移転。
1980 年	千葉県に第1号の倫理法人会発足。	2017 年	オレンジカウンティ倫理法人会設立。 サンパウロ倫理法人会設立。
1984 年	天和会館（丸山敏雄生誕地記念館）落成。	2018 年	カリフォルニア州倫理法人会設立。
1985 年	丸山竹秋が「地球倫理の推進」を提唱（創立40周年記念大会にて）。	2019 年	全国青年フォーラム2019開催。 「地球倫理の森」創成20周年記念式典開催。 カンピーナス倫理法人会設立。
1986 年	中華民国（台湾・台中市）に拠点開設。	2020 年	創始75周年記念事業として建設を進めていた紀尾井清堂が竣工。
1987 年	第1回日中実践倫理学討論会開催。	2022 年	倫理法人会7万社大会開催。 紀尾井清堂にて「奇跡の一本松の根展」開催。
1989 年	丸山竹秋、藍綬褒章受章、社会教育功労者表彰。	2023 年	米国倫理運動50周年記念式典開催。
1990 年	倫理法人会1万社達成記念大会開催。		
1991 年	年刊誌『倫理研究所紀要』創刊。		
1995 年	丸山竹秋が地球倫理推進の運動方針「アジアのタグボート」を発表（創立50周年記念大会にて）。		
1996 年	丸山敏秋、理事長に就任。		
1997 年	第1回地球倫理フォーラム（「まなびピア新潟」協賛）開催。		
1998 年	第1回地球倫理推進賞贈呈式開催。 倫理資料館竣工。		
1999 年	創立55周年記念中国クブチ沙漠「地球倫理の森」創成事業スタート。丸山竹秋逝去。		

倫理会館

岐阜倫理会館

〒501-0234 岐阜県瑞穂市牛牧 1496-1

大阪倫理会館

〒534-0025 大阪府大阪市都島区片町 1-7-20

加古川倫理会館

〒675-0055 兵庫県加古川市東神吉町西井ノ口 642-1

広島倫理会館

〒733-0012 広島県広島市西区中広町 3-24-16

大牟田倫理会館

〒836-0006 福岡県大牟田市大黒町 1-29-1

京都倫理会館

〒605-0907 京都府京都市東山区川端五条下ル西橋町 470

神戸倫理会館

〒658-0084 兵庫県神戸市東灘区甲南町 4-14-16

龍野倫理会館

〒679-4167 兵庫県たつの市龍野町富永 410-1

北九州倫理会館

〒802-0077 福岡県北九州市小倉北区馬借 2-7-28

鹿児島倫理会館

〒890-0064 鹿児島県鹿児島市鴨池新町 21-2



一般社団法人 倫理研究所

〒102-8561 東京都千代田区紀尾井町 4-5 TEL 03-3264-2251
ホームページ <https://www.rinri-jpn.or.jp>

発行：一般社団法人倫理研究所 編集：倫理研究所総務部 発行日：2024.12.27